

研究・調査報告書

報告書番号	担当
93	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and heart failure in hypertensive US male physicians. アメリカ高血圧男性医師のアルコール消費量と心不全について	
執筆者	
Djoussé L, Gaziano JM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Cardiol. 2008 Sep 1;102(5):593-7. Epub 2008 Jun 12.	
キーワード	
アルコール、心不全、医師、疫学	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>飲酒は血圧を上げ、大量飲酒はアルコール性心筋症の原因とされているが適切な飲酒量と高血圧者の心不全との関係はほとんど知られていない。そこで、ベースライン時に脳卒中・心筋梗塞・癌の無い5,153名の高血圧男性医師において適切な飲酒と心不全の発症との関係を前向きに調査した。</p> <p>方法：</p> <p>飲酒量は自主申告式で週に1杯、1-4杯、5-7杯、8杯以上に分類した。心不全は質問紙でフォローアップ調査を行いフラミンガム基準を用いて評価した。</p> <p>結果：</p> <p>平均年齢は58歳、70%が週に1-7杯飲んでいて、追跡期間中にこのコホート集団から478例の心不全が発生した。年齢、BMI、喫煙、ランダム集団、ビタミンの使用、野菜摂取量、朝のシリアル、運動、心房細動の既往で調節すると、週に1回以下の集団と比較すると心不全のリスク比(95%信頼区間)は、1-4杯で0.89(0.70-1.12)、5-7杯で0.72(0.57-0.91)、8杯以上で0.38(0.20-0.72)であった。心筋梗塞の既往・糖尿病を含んでも除いても類似の結果が得られた。</p> <p>結論：</p> <p>適切な飲酒量は高血圧男性医師の心不全の低リスクと関係していることが示された。</p>	